資料１－２－５

国立工芸館（東京国立近代美術館工芸館）の移転の現状と地方創生上の効果

令和３年４月１４日

石川県

１　芸術が息づく石川・金沢

藩政期から育まれた芸術文化

「工芸王国・石川」とも形容される豊かな文化の土壌

- 加賀藩前田家が文化の振興・育成に注力

名工の招へい・・・京都や江戸から名工を招へいし、職人を育成

御細工所（おさいくしょ）の拡充・・・武具を修復する工房を、工芸などの調度品も製作する工房として拡充

百工比照（ひゃっこうひしょう）の編纂・・・全国から工芸の見本を収集・編纂したことにより、製作技術が向上

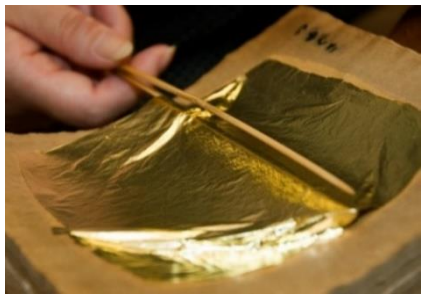
- 人間国宝など数多くの優れた人材を輩出
- 漆器、陶磁器など３６業種もの伝統工芸が継承され、産業や生活の中にも工芸が息づく

日本を代表する工業デザイナー
柳 宗理氏も金沢で活躍

九谷焼

加賀友禅

輪島塗


金沢箔

兼六園周辺文化の森

文化の厚みを象徴する地

- ◆公園や文化施設がある区域 約60ha
- ◆江戸から平成に至る各時代の歴史的建造物や文化施設が集積

2　移転の現状

国立工芸館の移転

・ 建物は石川県と金沢市が協力して移築整備
工事費33.7億円（県市負担６：４）

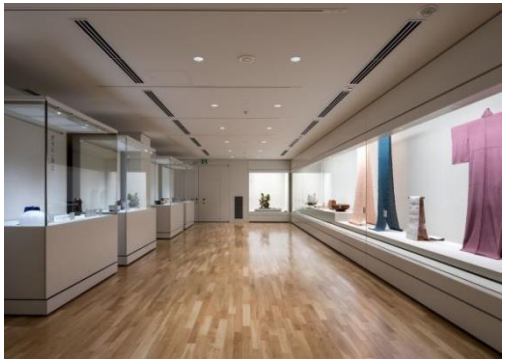
・ 国登録有形文化財である旧陸軍の第九師団司令部庁舎と金沢偕行社を移築・復元し、美術館仕様で整備（移転前と同規模程度）

・ 過去に撤去された部分を復元するとともに、外観の色も建設当時の色に塗り直し、明治期の姿を再現

第九師団司令部庁舎(明治31年建設)　　金沢偕行社(明治42年建設)

国立工芸館の機能強化

- 展示スペースの拡充（面積１割増、２区画 → ３区画）
- 講演や体験イベントなどに使用する多目的室の新設
- ミュージアムショップ、資料ライブラリの拡充　など


展示室

タッチパネルで工芸を学ぶ

多目的室

ミュージアムショップ

ライブラリ

エントランス中庭の陶磁作品

国立工芸館の開館

- 令和２年１０月に通称「国立工芸館」として開館

  ⇒ 日本海側初の国立美術館が誕生

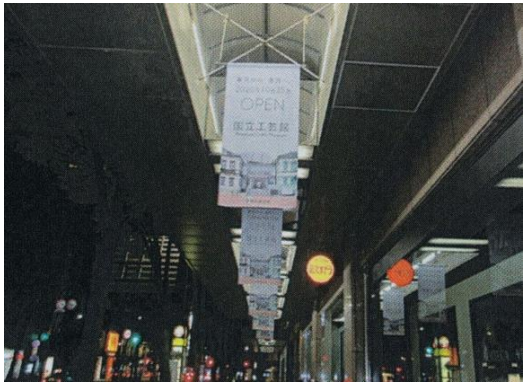
名誉館長はサッカー元
日本代表の中田英寿氏

- 収蔵作品約３,９００点のうち、
工芸館が所蔵する日本芸術院会員や人間国宝の全作品
を含む美術工芸作品約１,９００点が移転

  ※ 残りの美術工芸作品や工業デザイン、グラフィックデザイン
  の作品約２,０００点は東京で収蔵

- 金沢駅や周辺繁華街において、街ぐるみで開館をＰＲ

金沢駅もてなしドーム



金沢市香林坊商店街

文化施設の入場料支出（金沢市）
全国第１位（Ｒ２年）
※総務省家計調査

3　移転による効果

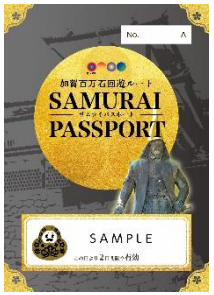
国立工芸館を中核に周辺文化施設が連携

- 国立工芸館の開館に合わせて県立美術館など周辺文化施設で工芸に関連した展覧会を実施

松田権六
《松蒔絵飾箱》

二代浅蔵五十吉
《樹間に遊ぶ 色絵飾皿》

- 回遊性を高めるため、兼六園、金沢城公園や文化施設を対象にしたパスポートを発行



SAMURAIパスポート

- 国立工芸館の入館者数
  移転開館記念展の第一弾「工（たくみ）の芸術」は、コロナ禍で入場制限したが、
  想定の3倍となる約３万人が来館

国立工芸館「工の芸術」
（R2.10.25～R3.1.11）

- 隣接する県立美術館、歴史博物館等への周遊性が向上

人材育成面での連携

- 九谷焼技術研修所など地元教育機関からの視察受入れ
- 金沢美術工芸大学、市民大学講座等への講師派遣　など

⇒ 今後は、金沢美術工芸大学など芸術系大学との連携を促進

石川県立九谷焼技術研修所

金沢美術工芸大学

国際北陸工芸サミットに合わせた特別展

- 今年８～１２月に石川県で「国際北陸工芸サミット」を開催
- サミット期間中に国立工芸館を始めとした文化施設が工芸に関連した特別展を開催

国立工芸館

鈴木長吉«十二の鷹»と明治工芸（仮称）

重要文化財「十二の鷹」を中心とした明治期の一流の工芸作品を一堂に展示

『十二の鷹（部分）』（鈴木長吉）

県立美術館

北陸三県名品展（仮称）

北陸三県の人間国宝・日本芸術院会員全35名の作品を初めて一堂に展示

『蓬莱之棚』（松田権六）

県立歴史博物館

尾張徳川家の至宝展（仮称）

徳川家伝来の至宝（約120点うち国宝5点）を一堂に展示

国宝『初音蒔絵眉作箱』（江戸時代）

三の丸尚蔵館所蔵作品の特別展

- 令和５年度に国民文化祭「いしかわ百万石文化祭２０２３」が石川県で開催

- 国立工芸館と県立美術館において、宮内庁三の丸尚蔵館所蔵の皇室ゆかりの美術工芸品による特別展の開催を計画

＜ 三の丸尚蔵館の所蔵作品例 ＞

「網代蔦蒔絵棚」（大垣昌訓）

「唐獅子図屏風」（狩野永徳）

「古筆短冊手鑑」

※R3.7～ 県立美術館で公開予定

近代建築周遊ツアー

- 兼六園周辺文化の森に集積する、国立工芸館を始めとした明治・大正の近代建築をめぐるツアーを実施
- ツアーを案内するボランティアを養成

国立工芸館
（旧陸軍第九師団司令部庁舎、金沢偕行社）

県立美術館広坂別館
（旧陸軍第九師団長官舎）

いしかわ赤レンガミュージアム
（旧金澤陸軍兵器支廠兵器庫）

石川四高記念文化交流館
（旧第四高等中学校）

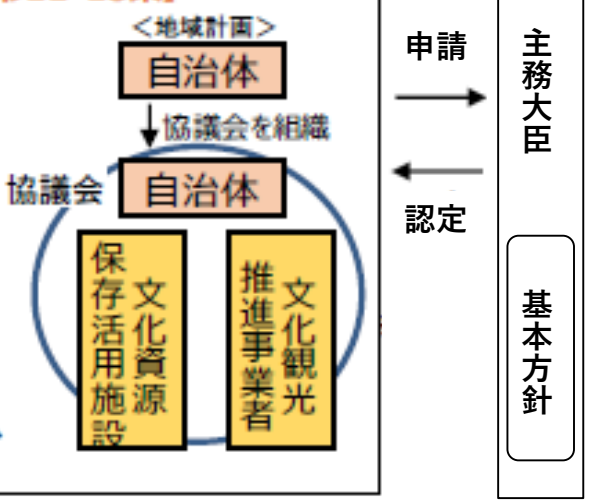
しいのき迎賓館
（旧石川県庁舎）

文化観光推進法に基づく地域計画の策定

国立工芸館と石川県・金沢市が連携して、文化観光推進法に基づき、兼六園周辺文化の森の文化施設を観光拠点として活用する計画の認定に向け申請中

地域計画の認定等及びこれに基づく事業に対する特別の措置 【第11-15条】

- **市町村又は都道府県が**単独で又は共同して**組織する協議会において**、**文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の総合的かつ一体的な推進に関する計画**（地域計画）を作成し、自治体・文化観光拠点施設の設置者・文化観光推進事業者が共同して、主務大臣の認定を申請。【第11,12条】
- 地域計画では、当該地域における文化観光の推進に係る**基本方針**や**目標**のほか、**地域内の文化資源の総合的な魅力増進、移動等の利便増進**※3、**広報**等の事業等を定める。【第12条】
- 認定地域計画に基づき、**文化財の登録の提案に関する特例措置、①と同様の特例措置**を実施。【第16,17条】



正式名称の変更

・ 令和３年４月１日、正式名称を「東京国立近代美術館工芸館」から「国立工芸館」に変更

・ 名称変更により、政府関係機関の地方移転の意義や成果をより明確に

国立工芸館と石川県・金沢市が連携を深め、

- 兼六園周辺文化の森を名実ともに日本の工芸の発信拠点に
- 国内外からの観光誘客を促進し、国が進める観光立国や地方創生にも貢献